

3-10 コメンテーター森誠一氏の発言内容

- 1 侵略的外来種の影響と対策について多くの報告があり、生態系保全をめぐり多様な取り組みが示された。本シンポジウムにより、アメリカザリガニの影響の大きさについてその深刻さを改めて実感し、多様な対策や取り組みについて詳しく知ることができた。
- 2 アメリカザリガニの防除については①植物、貝類、魚類への影響に関する詳細な報告があった。②連続捕獲装置、人工巣穴、水位攪乱など新技術が紹介され、引き続き効果的な技術の開発が期待される。③ルールづくりのための議論の積み上げが必要である。④ザリガニ魚醬など捕獲物の利活用が紹介され、今後の進展が期待される。
- 3 **防除を効果的に進めるため、プラットフォームを構築し、様々な防除主体が参加できるようにする試みが提案された。**また、報告では一般の人が知れない情報が多く、例えば伊豆沼ではゼニタナゴがかつて数トン漁獲されていたことなどは現在では驚くべき事実である。郷土の貴重な記憶を記録して残すと共に、広く情報提供し、現状を多くの人に理解してもらう必要がある。

バスの言い分

森 誠一

それにしたって、肩身狭いよなあ。

ボクはオオクチバスだ。何世代前かの祖先が日本に、悠久な進化的時間を過ごしてきたアメリカから連れてこられた。日本のいくつかの湖沼に限定的に放り込まれたが、その後、全国各地にバラまき放流された。人が広げているんだ、ボクたちを。まず、そこんところを忘れてもらっちゃあ困る。

ボクたちバス一族は総称してブラックバスとも呼ばれ、何種類かが北アメリカにいる。もともと、そこにいる雑魚を食べて魚食性魚類として進化してきた。ここも忘れてもらっちゃ困るところだ。日本の狭い水域には、

魚を専食する魚はあんまり誕生しなかったし、それは魚に食べられる魚も少なかったともいえる。

最近では、親戚のコクチバスも入ってきた。決して、彼らだって、太平洋を泳いでやってきたわけではないよ。誰が入れたんだろうねえ。彼らは日本に連れてこられて、すぐにボクラと同様に特定外来生物というのに指定され、この国に居ちゃあいけない魚になってしまった。法的根拠に基づいて、ボクラは駆除される羽目になったのだ。

その駆除のやり方、何とかならんかなあと思うことがある。

この間なんか、小学生の水生物調査でボクラの一尾が

捕まった。きつとわくわくして

彼を捕まえた男の子が、環境教育の一環としてやってきた指導者を持っていったら、そいつは彼を持ち上げて、散らばって調査をしていた子供たちを集めて言ったという。「みんな、こいつが日本の自然を悪くするブラックバスだ。こういう奴はこうなる。見とけ」。そう言い放って、そいつは彼を地面に叩きつけ、ラジアル底の長靴でグリグリと捻じ込むように踏みつけた。ボクは、今、目の前に泳いでいるハヤやモロコといった雑魚より、こめかみに青筋立ったに違いないそいつを飲み込みたい気持ちになるよ。その場をいた子供たちは、一気に気持ち

profile

MORI Seiichi

岐阜経済大学・教授、
越前大野市「イトヨの里」・館長
日本魚類学会・外来魚検討部会部長
京都大学、理学博士
専門は動物生態学・社会行動学・環境保全学
著書に「トゲウオのいる川」(中央公論社)、
「トゲウオ、出会いのエソロジー」(地人書館)、
「希少淡水魚の現在と未来」(信山社)など多数

が萎えてしまったという。百歩
護って気持ちにはわからんでもな
いが、もう少し楽しくかつ広く
合意できる仕組みをもってでき
ないものかなあ。

ボクはバスだからバス擁護派
だよ。生物多様性や水産業への
影響を与える原因は、ボクたち
ばかりにあるわけじゃあない。
ボクたち以外に、他にも生態系
に影響を及ぼすことはいろいろ
あるだろう。しかし、だからと
いって、ボくらバス族はバス
サーと違って、その責任逃れを
するつもりはない。つまり、そ
の擁護は釣り人バスサーの論理
じゃあないんだ。

本当にボクたちのことを思
うのだったら、根掛りしたル
アーやほぐれた糸、あるいはコ
ンビニ弁当のトレーやペットボ
トルなどのゴミ捨てはやめて欲
しい。生息環境が悪くなる一方
だ。そんなことは人のマナー・
エチケットの問題であり、そも
そも生き物として当然の配慮だ
よ。水質悪化はバスサーのせい
だけでないというなら、その原

因を突き止めて改善活動をやっ
て欲しいものだ。ボクたちだっ
て、きれいな水質を望んでいる
し、あるいは少なくとも産卵場
の掃除くらいやってくれたらな
あと思うよ。バスサーの多くは、
ボクたちが少なくなったら別の
池に放流するだけで、別に環境
整備をするわけではないし、そ
こも悪くなったら別の池へと同
じことを繰り返しているだけだ。
その結果、全国津々浦々に分布
してしまった。ひよっとしたら、
わが国で最も分布域の広い魚に
なっているかもしれないよ。

バスサーのなかには、ボク
たちの生態についてほとんど知
らない者も多い。つまり、ボク
たちのことを思っているわけで
はなく、要は、単に釣りという
行為に興じる対象でしかないわ
けだよ。その後、いろんな
バスがアメリカ各地から移入さ
れ、この国で勝手気ままに混ぜ
られている。ボクたちの立場か
ら言えば、遺伝子汚染されモン
スターが作られていることにな
る。これでは自然を冒瀆する行

為じゃあないか。こうして汚染
された彼ら（ボクも？）は、も
う故国アメリカに戻ることもで
きない。

これじゃあ、バス擁護という
より、個人的趣味による恣意的
なわがままでしかない。ボクた
ちはくり返し鋭いルアーで口唇
をえぐられ痛い目にあって、釣
り上げられるんだよ。ましてや
人の情操に役立つなんてどうで
もいいんだ。そんな人間中心の
利用じゃあ、ボクたちだって、
バスサーを擁護できないな。こ
の国のなかで、人と自然の関わ
りを重視するなら、もともとの
フナやハヤ、ヤマメでやってく
れ、と言いたいね。

もはや故国に戻れないボクた
ちの本音は、駆除され続けてい
くなかで、バスサーに釣られる
こともなく、どこかひっそりと
自分たちの独自の生息環境を探
し出して、棲み分けできるように
なることなんだ。少しは在来
種もいたただくけどね。

いずれにしたって、肩身狭い
よなあ。

それにしたって、
肩身狭いよなあ。



コクチバス
(2006年4月29日岐阜県のため池で捕獲)